

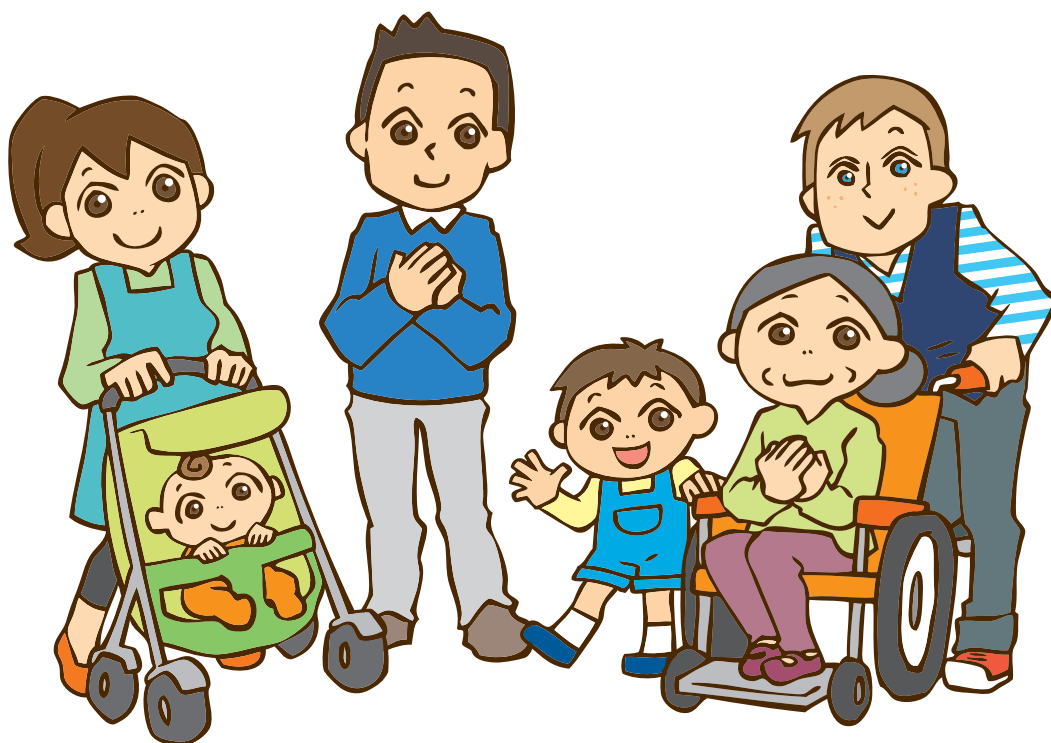


ふくしまユニバーサルデザイン イメージキャラクター

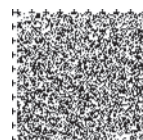
ふくしま型 ユニバーサルデザイン

Fukushima Style Universal Design

だれもが安心して快適な社会をめざして



福島県



ユニバーサルデザイン(UD)って何?

ユニバーサルデザイン(UD)とは、できるだけ多くの人が安全・安心して快適に生活できるような社会(まち)を作る考え方のことです。

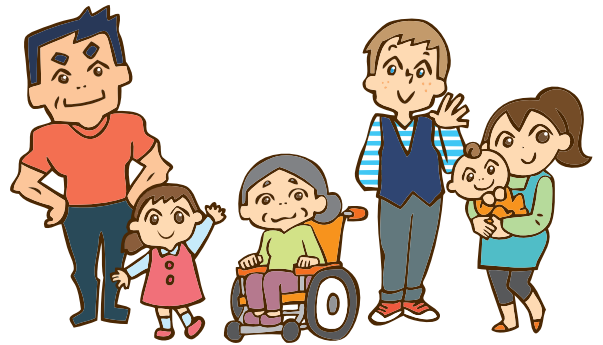
特定の人を対象として、すでにある障壁(バリア)を取り除いて使いやすく改善を図るバリアフリーに対し、ユニバーサルデザインの場合、「はじめから」「すべての人を対象に」している点が特徴です。

ユニバーサルデザインを進めるポイント すべての人のためという「意識づくり」

1

地域には多様な人たちが
一緒に生活しています。

人は、体格、性別、身体能力、言語など、あらゆる面で一人ひとりが異なります。



2

人の能力は時とともに、
状況に応じて変化していきます。

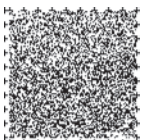
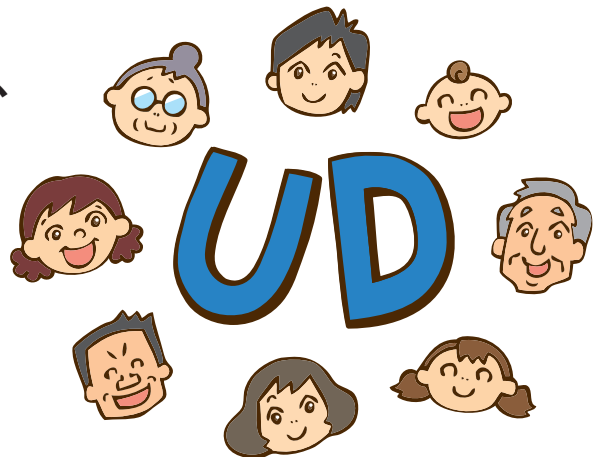
人はだれでも怪我や病気をしたり、事故にあう可能性があります。また、高齢期を迎えると、若い頃と比べて日常生活に不自由を感じるようになるのが一般的です。



3

できるだけ多くの人が快適に使え、
活動できるように考えます。

ユニバーサルデザインは、特定の人による利用ではなく、高齢者、障がい者、子ども、妊娠中の方、外国人など、あらゆる特性をもつ方を対象としています。



◀SPコード

専用の機械で読み取ることによって印刷物の内容を音声再生します。点字のような特別な加工なしに、視覚障がい者へも情報を伝えることができます。

これも
ユニバーサル
デザイン

福島県の進めるユニバーサルデザイン

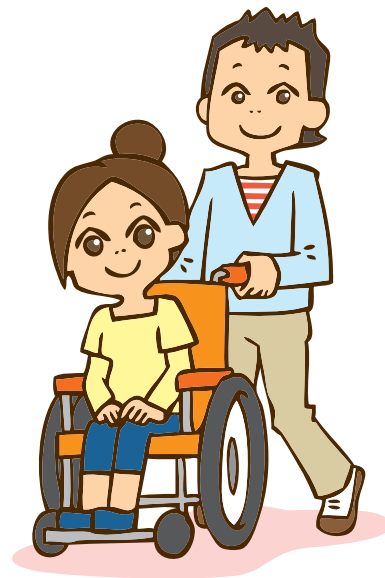
「ふくしま型ユニバーサルデザイン」

福島県では、施設や交通手段などのまちづくりや、製品の普及や開発などを行うものづくりといった「かたちのあるもの」だけではなく、情報・サービスの分野や教育、人材育成、意識づくり、社会参加など「かたちのないもの」にも力を入れています。

こころのユニバーサルデザイン

お互いを思いやる気持ち、それが「こころのユニバーサルデザイン」です。いくらハード面での設備(かたちのあるもの)が整っていても、使う人のことを理解していなければ何の意味もありません。

こころのユニバーサルデザインが普及すれば、設備が整っていない場合でも、少しの手助けで解決できることもあります。



ふくしま型ユニバーサルデザインのキーワード “思いやり”をシステム化

ふくしま型ユニバーサルデザインの構成要素

公平で
快適

だれもが、いつでも、どこでも、疎外感を味わうことなく、安心してサービスを楽しむことができること。

簡単で
効率的

経験や知識、語学力、集中力などにかかわらず、利用する人に必要な情報が十分に伝わり、簡単に理解できること。

安全で
安心

間違いや危険をできる限り防止するよう配慮され、間違いをしたときや危険なときでも安全が確保されていること。

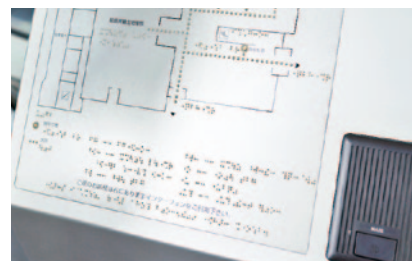
さりげなく
美しい

まわりから差別や偏見を抱かれることなく、またデザインとしても美しく、さりげないデザインであること。

柔軟で
少ない負担

一人ひとりの価値観に合わせて、柔軟に参加・利用でき、経済的・心理的・体力的にも大きな負担とならないこと。

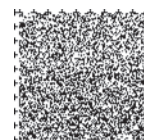
たとえば…



触知案内図に加え、インターホンを使って人による案内も行う。



手話通訳や要約筆記などでも情報提供する講演会。



まちづくりのUD

「まちづくりのユニバーサルデザイン」の一例をご紹介します。皆さんの暮らすまちには、どんなユニバーサルデザインがありますか。



音でも知らせてくれる信号機

電線地中化で車いすも十分な歩道スペース

車道から離れた所にある点字ブロック

植栽でさりげなく歩道の安全を確保

様々な立場の方が共同生活を送る仮設住宅にもユニバーサルデザインの視点が大切です。



車いすで移動しやすい舗装の通路

階段とスロープを併設した仮設住宅



自動車免許を持たない人も移動できる

乗り降りしやすい低床バス



疲れたとき休憩できる歩道のベンチ

移動手段がつながることも交通のUD



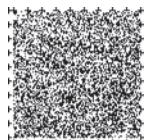
駅に設置されたエレベーター

おもいやり駐車場利用制度

スーパーや病院、公共施設などには、歩行が困難な「障がい者、要支援高齢者等、妊産婦」などが車を停めるためのスペース(車いすマークのある駐車場)が設置されていますが、このスペースを必要としない方々の心ない利用により、「必要としている方が必要としている時に」利用できない場合が多くあります。

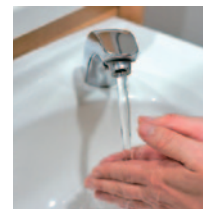
おもいやり駐車場利用制度は、上記のような状況を少しでも改善し、歩行が困難な方々の駐車スペースを確保するために設けられました。

この利用証を提示した車のみ駐車できます





みんなのトイレ



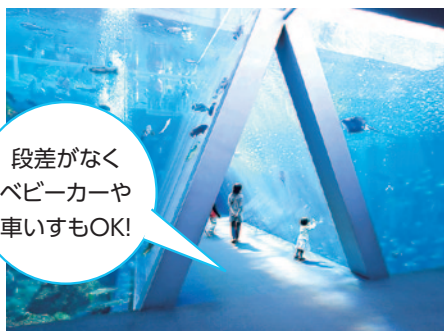
自動で水が出る蛇口



大きなスイッチ



引き戸の長い取っ手



段差がなくベビーカーや車いすもOK!



見やすく大きな案内表示

高さが2種類ある手すり



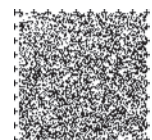
成長や好みに合わせて選べるすべり台



やさしさマーク

福島県では、「人にやさしいまちづくり条例」の整備基準を満たしている建物に「やさしさマーク」を交付しています。飲食店や金融機関、病院など、たくさんの方が利用する施設で、高齢者や身体の不自由な人をはじめ、すべての人が安心して利用できるように段差解消、通路幅の確保、車いす用トイレなどが整備されています。

福島県庁の「やさしさマーク」



情報・サービスのUD

形として存在するものだけではなく、情報やサービスといった形のないものもユニバーサルデザインを構成する大切な要素のひとつです。

文字(外国語)、点字、音声など複数の知覚に訴える広報

聴覚障がい者などには伝わらない



行政や議会などの情報は「複数の知覚」を使って広報します。たとえば、テレビの広報においては、手話通訳やテロップ、資料映像等を用いることによって分かりやすい番組を放送します。



絵・音声・点字・外国語などの多様なサインによる案内表示

子供や外国人などが危険に



言葉で伝えにくい場合は、直感的に分かりやすい絵を用いて情報を伝えるという手段もあります。他にも音声や点字、外国語などで、すべての人に分かりやすい案内表示を推進します。



外食メニューや栄養成分などの表示

食習慣の異なる外国人が注文に困る

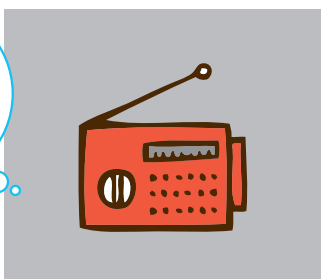


安心して外食を楽しみながら健康な食生活を育むことのできる食環境を整備するため、提供するメニューの栄養成分表示やアレルギー表示などを分かりやすく見せる工夫を推進します。

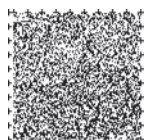


災害時における緊急を要する情報の提供

ひとつでは情報が限定



災害時のときこそ、すべての人に情報を迅速・正確に伝えなければなりません。地域と連携しながら複数の通信手段を確保するなど、情報伝達体制の整備が進んでいます。



ものづくりのUD

使う人の気持ちを考えて見えてくる

できるだけ多くの人を使いやすく、使いたくなるものづくりを進めるのもユニバーサルデザインです。

高齢社会に入り、ますますUD製品の需要が高まっています。様々なユーザーの声に耳を傾けるものづくりが大切です。



ギザギザがある方がシャンプー

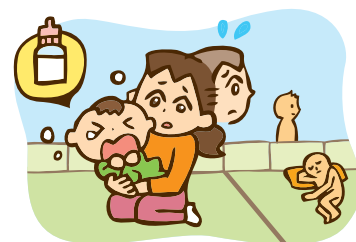
身近にあるUD製品

- 電話や電卓の中心キーの凸
- 音声ガイド付きの携帯電話
- 振動式目覚まし時計
- 点字のついた缶ビール
- 見やすい色のチョーク
- 持ちやすい形のペットボトル
- 大きな活字の辞書や書籍
- 左右両用タイプのカッター
- レバー式の蛇口
- ボタン位置が低い自動販売機
- 軽い力で使える文房具
- ……他にもたくさんあります。

ふくしまからはじめるUD

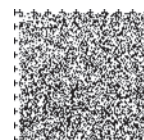
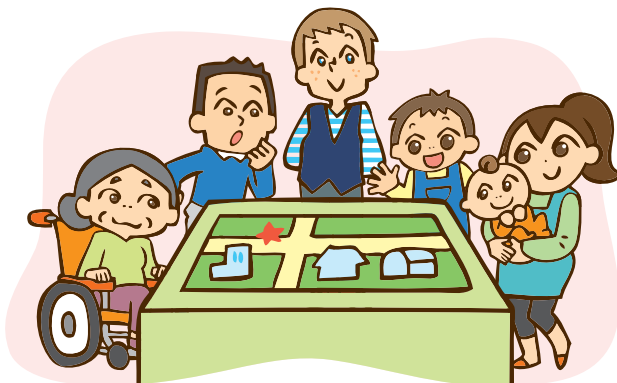
東日本大震災の経験を踏まえて

東日本大震災および原子力災害では、「働き」「学び」「遊び」「憩う」などの暮らしに関わるさまざまな場所や空間、施設や設備に問題が発生しました。



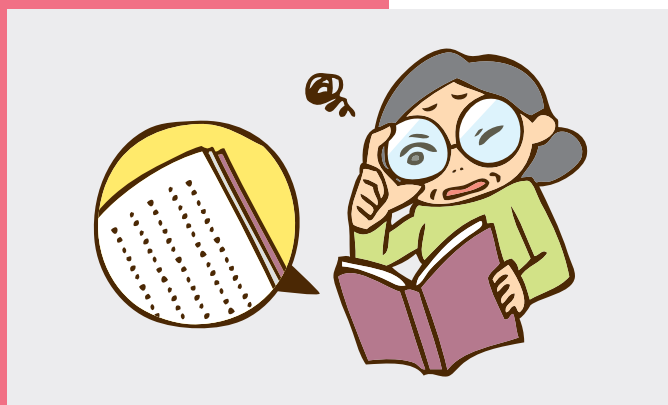
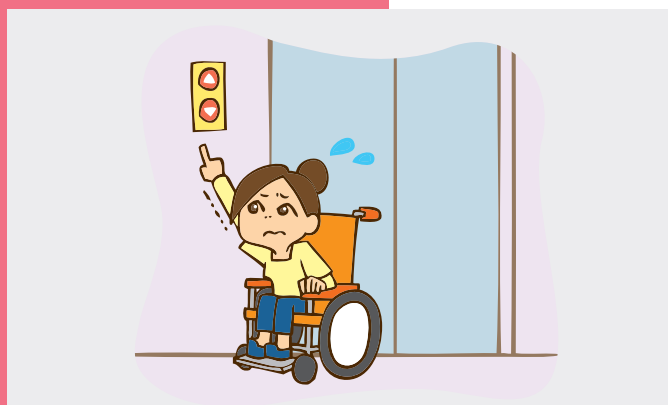
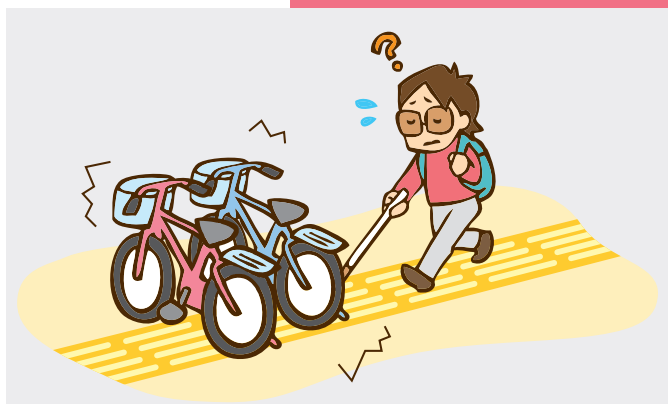
復興におけるユニバーサルデザイン

復興に向けた取り組みを行う上で、ハードとソフトの両面からユニバーサルデザインの考え方を重視していく必要があります。「はじめから」「すべての人に」安全、安心、快適なものとなるように整備を進め、誰もがユニバーサルデザインの考え方を理解することで、地域に暮らす誰もが社会の担い手としていきいきと活動できる社会をめざします。



できることから行動 あなたもUDアクション!

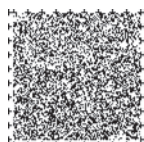
たとえばこんなとき、皆さんならどうしますか。
答えは一つではありません。



ユニバーサルデザインを未来に向かって加速させる一番の力は「人を思いやる気持ち」です。なぜ困っているのか、どうすれば便利になるのかを考え、共感することで新しい価値が生まれます。安心・快適な社会をめざして、その輪を広げていきましょう。

福島県生活環境部青少年・男女共生課

〒960-8670 福島市杉妻町2-16
電話 024-521-7188 FAX 024-521-7887
Eメール youth-danjo@pref.fukushima.lg.jp
ホームページ で



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

この印刷物はUDフォントを使用しています。